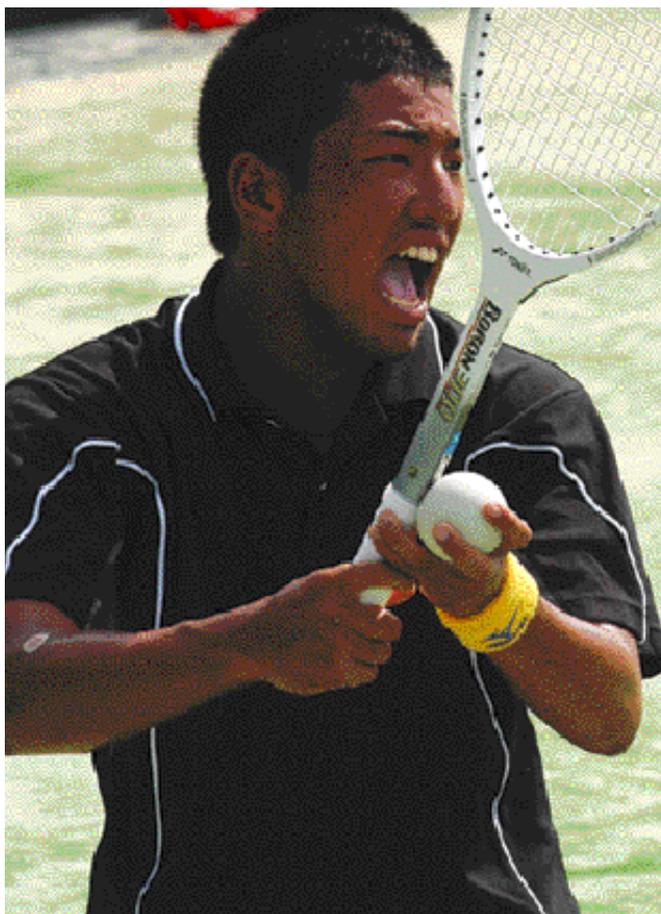


君の輝く瞬間が今伝説となる



スピードボールを打ち込む(上)
厳しいボールをバックハンド(右)



こばやし ひでのり サービス前、気合を入れて集中する

小林秀訓さん(上菅)

小学3年からソフトテニス始める。全国大会デビューは小学6年。中学、高校ともソフトテニス部に入部し、各大会で優秀な成績を収める。現在、米子西高校の3年生。上菅在住の18歳。ソフトテニス歴10年。

高校総体ソフトテニス(個人・団体)に出場

あきらめず白球を追い続けた

全国高校総体ソフトテニス個人選手権2回戦から登場した小林秀訓さん(米子西高・上菅)。対戦相手は愛知県知多東高校。相手のミスを誘う巧みな試合運びでゲームを支配し4-2で勝利した。続く3回戦は、強豪の埼玉県武蔵越生高校。1ゲームこそ競り合うが、ミスが重なりゲームを失っていく。相手のマッチポイントも自陣コートにネットし0-4のストリート負け。団体戦は初戦、市尼崎

(兵庫)と対戦。3番手で出場したが2-4で負け。チームも0-3の1回戦敗退。個人、団体とも全国の壁の厚さを肌で感じた大会だった。小林さんは試合を振り返り「足が余りにも動かなかった。相手はきつちりとしたテニスで、すぎがなかった。実力を出し切れなかったことが残念。不完全燃焼です」と大粒の汗を流しながら悔しがり「やり残したことがたくさん。もっと練習しとけば良かった」と自分を戒め

る。「親には好き勝手にテニスをさせてくれて感謝。本当は勝つことで親孝行したかったのですが残念。ペアや指導者にも感謝したい」とテニスを通じて多くの人に支えられ今の自分があることに気づく。今後は大学に進学し、ソフトテニスを続ける。そして「高校教諭になって後輩を指導していきたい」と将来を教えてくれた。何県と聞く「日焼けした顔から「もちもんな元です」と笑顔で答えてくれた。